

街道沿いの集落における歴史的建造物群の残存状況と特性
—新潟県岩船郡とその周辺を対象として—

会員種別 ○ 佐藤 憲明 1*
会員種別 岡崎 篤行 2**

街道沿いの集落 歴史的建造物 新潟県岩船郡

1. 研究の背景と目的

新潟県最北端にある岩船郡は、広域的また悉皆的な調査されていないため歴史的建造物や広範囲における特性は把握されていない。本研究は岩船郡とその周辺を通る街道沿いの集落における歴史的建造物群の残存状況と特性を明らかにし、まちづくりの基礎資料とすることを目的とする。

2. 研究方法(図1)

街道、街道沿いの集落、集落の属性を文献1)、2)、3)より把握し、街道沿いの集落において歴史的建造物を通りから傍観できる範囲で判別し抽出する。歴史的建造物とは戦前に建てられた建造物とし、付属屋も含んでいる。また岩船郡と北蒲原郡の一部を詳細調査範囲、北蒲原郡と新潟県境に近い山形県の主要集落を周辺調査範囲とする。

詳細調査範囲では主要な通りから10棟以上歴史的建造物があれば、特徴と残存率を把握する。10棟未満であれば特徴を把握する。周辺調査範囲では特徴のみ把握する。

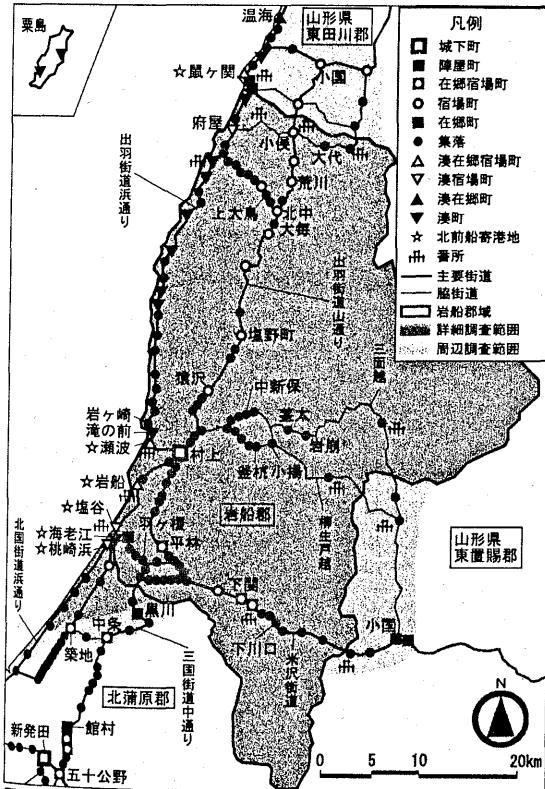


図1 岩船郡を通る街道と街道沿いの集落分布図

3. 歴史的建造物の残存状況

(1) 調査対象の概要

対象集落は130集落で、歴史的建造物は2,885棟確認できた。また残存率を調査した集落は63集落で、そのうち歴史的建造物は2,485棟抽出した。

(2) 集落別の残存率と残存棟数(図2)

図2は残存率を調べた集落のうち20.0%以上の集落を表記した。釜杭が40.0%と最も高く、次に瀬波の37.1%、岩ヶ崎は36.2%であった。棟数は村上が545棟と圧倒的に多く、次に岩船の142棟、そして塩谷の117棟であった。

4. 歴史的建造物の建築特性

(1) 歴史的建造物のタイプ分類(表1)

歴史的建造物のうち主屋は1838棟確認できた。これを配置形態、棟の向き、階高、下屋有無の順に分類した。配置形態は接道した町家型と通りから奥まって隣家と間が広い屋敷型で分けた。棟の向きは棟が通りと直交していれば堅屋、平行であれば横屋とした。また前が横屋で後ろが堅屋の形態を丁字造りとした。各タイプで30棟以上あったものを抽出し、11タイプに分類した。町家横屋二階型が最も多いが、これを除くと町家堅屋二階型の方が多いことがわかる。

(2) 街道別の集落の建築特性(表2)

主屋が確認できたのは122集落で、各項目で一番割合が

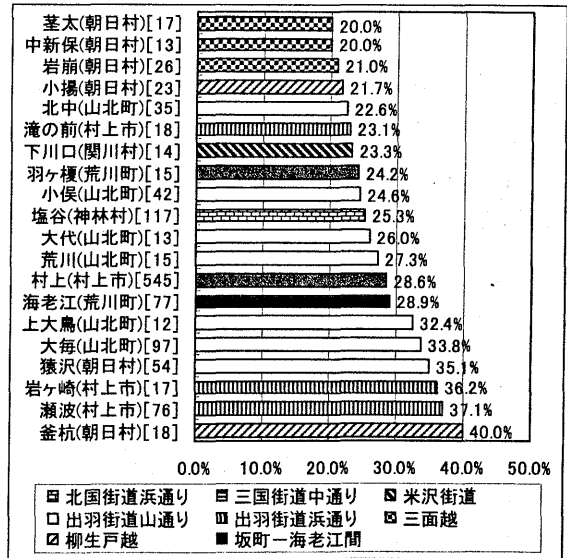


図2 各集落の残存率(※図中の [] 内は歴史的建造物の棟数)

Existence and character of historic building in village along of the road

SATO Noriaki, OKAZAKI Atsuyuki

— The case of Iwahune-Gun, Niigata prefecture and the around —

高い特徴を集落の特徴とした。

- 1) 構造：RC造が2棟で、残りは全て木造であった。
- 2) 階高：二階建てが主流の集落が101集落有り、大半を占める。平屋は北国街道浜通りに多く分布していた。
- 3) 屋根形状：切妻が主流の集落が109集落有り、大半を占める。入母屋が主流の集落は6集落であった。
- 4) 棟の向き：横屋が主流の集落は71集落で、過半数を占めている。堅屋が主流の集落は39集落であった。丁字造りが主流の集落は5集落あり、米沢街道とそれに接続する三国街道中通り沿いの集落で見られた。

次に図7は堅屋と横屋が混在している集落の分布と堅屋が大多数を占める集落(堅屋が30棟以上かつ85%以上)、横屋が大多数を占める集落(横屋の場合と同じ)の分布状況である。堅屋と横屋が混在する集落は78集落有り、過半数の集落を占める。堅屋が大多数の集落は塩谷と猿沢のみで、横屋が大多数の集落は村上と瀬波のみであった。

6、まとめ

(1) 岩船郡とその周辺において歴史的建造物を11タイプに分類できた。また歴史的建造物の残存率が最も高いのは釜杭で、また残存棟数が最も多いのは村上であった。

(2) 木造二階建て、切妻屋根が主流の集落が大部分である。

(3) 棟の向きは横屋が主流の集落が過半数を占めた。そのう

表1 歴史的建造物のタイプ分類(※村上の占める棟数)

配置形態	棟の向き	階高	下屋の有無	タイプ	棟数	
屋敷型	縦屋	平屋	有り	屋敷堅屋平屋型	101	
		二階	有り	屋敷堅屋二階型	153	
	横屋	平屋	有り	屋敷横屋平屋型	40	
		二階	有り	屋敷横屋二階型	174	
	縦屋と横屋 両方	平屋と 二階両方	無し	長いマグサ 有り	下屋無しマグサ型	31
		平屋と 二階両方	有り	主屋前に 突出部有り	中門造り型	94
町家型	縦屋	平屋	有り	町家堅屋平屋型	95	
		二階	有り	町家堅屋二階型	233	
	横屋	二階	有り	町家横屋二階型	423 (※258)	
			無し	町家下屋無し型	210 (※130)	
	横屋一堅屋	平屋と 二階両方	有り	丁字造り型	104	
		合計				1658

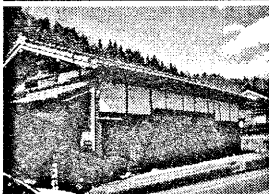


図3 下屋無しマグサ型(小侯)

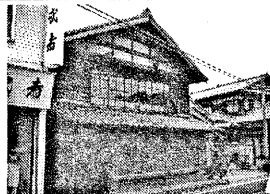


図4 町家堅屋2階型(平林)

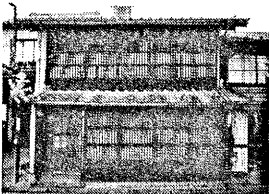


図5 町家横屋2階型(村上)



図6 丁字造り型(下関)

*新発田市役所 工修

**新潟大学工学部建設学科 助教授・工博

*Shibata City Government, M.Eng

**Assoc. Prof., Dept. of Civil Eng. and Arch., Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr. Eng.

ち横屋が大多数を占める村上と瀬波における横屋は大屋根が奥までである形態だが、他の集落における横屋は間口が大きく奥行きがない形態で、村上と瀬波の横屋は他で見られる横屋とは異なる形態であることが言える。これは村上が城下町として新しく造られた都市であり、関西から城主が何度も来ていることから土着の建築様式とは異なる様式が根付いたためと推測される。また瀬波は村上の湊であったため同様に整備され、同じ形態をしていると推測される。

(5) 堅屋と横屋が混在する集落は過半数を占め、そのうち猿沢と塩谷は堅屋が大多数を占める。また歴史的建造物のタイプが他と異なる横屋がある村上と瀬波を除けば、屋敷型と町家型共に堅屋が多い。前面部分を堅屋から横屋に直したと言われている丁字造り型が岩船郡南部を通る街道沿いの集落でよく見られ、さらに文献4)の絵図に現在横屋が大多数の村上と瀬波に堅屋の建物が描かれていることから、年代判定をしていないので推測ではあるが、現在この地域は横屋が主流の集落が多いが、昔は堅屋が主流だった集落が多かった可能性があるとして推測される。

表2 集落の建築的特性の主流要素(数値は集落数:全122集落)

階高		屋根形状					棟の向き				
平屋	二階	平屋 二階 同率	切妻	入母屋	寄棟	切妻 入母屋 同率	入母屋 寄棟 同率	横屋	堅屋	横屋 堅屋 同率	丁字 造り
16	101	5	109	6	4	1	2	71	39	7	5

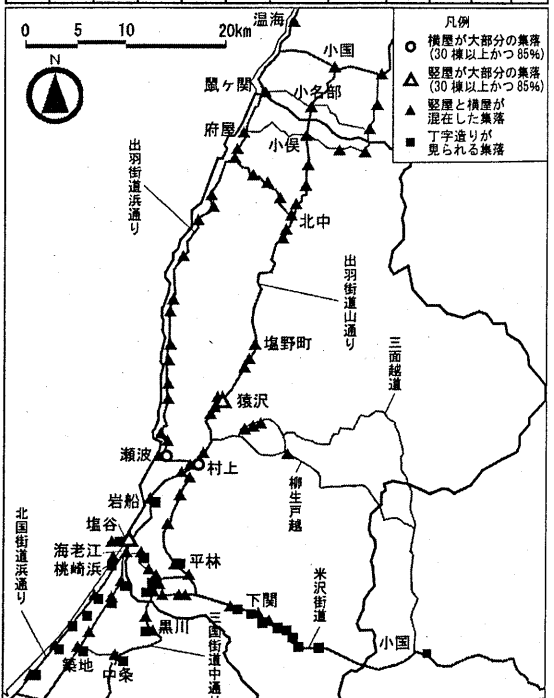


図7 堅屋と横屋が混在した集落の分布図

【参考文献】

- 1) 小村式監修「図説 新潟県の街道」1994. 12. 15
- 2) 文政元年(1818)「越後奥地全図」新潟県立図書館所蔵
- 3) 加藤貞仁「北前船 寄港地と交易の物語」2002. 10. 15
- 4) 慶長2年(1597)「瀬波郡絵図」米沢市市立上杉博物館所蔵